

市民負担の軽減を進めます。

- 高すぎる国民健康保険税の値上げに反対し、子どもの減免制度の拡充を求めます。
- 補聴器購入費助成制度を実現します。

姑と2年間暮らしました。同居した当初、テレビにも関心をもたず、通い始めたデイサービスではニコニコ過ごすのに、「面白くないから行きたくない」。

耳が聞こえないため他に関心をもてず、トラブルを起こすまいとニコニコして過ごしていたのだと気が付きました。認知症も進んでいました。ところが、補聴器をつけるようになって表情が変わりました。

高齢者が孤独の中で認知症を患い、社会生活から隔絶されることがないよう、補聴器の購入費の助成を求めます。

岩波 洋子さん

(みんなのきこえを実現する東久留米の会)

お耳が遠いお義母さんの晩年に寄り添った北村のり子さん。補聴器の活用で、表情豊かに会話し、共に歌った経験から、誰でも補聴器を使える助成制度の実現を訴えています。

安心して住み続けられる街に

- 交通不便地域にコミュニティバスを実現します。
- 北部地域の都市計画道路建設は一旦、立ち止まって市民の合意形成を優先します。

小山・幸町・本町地域の都市計画道路建設計画は、住環境や自然環境の大きな変化を心配する地域の方々から、根強い反対の声があります。小山区間の建設に必要な事業認可の取得にも時間がかかっています。

道路建設は一旦立ち止まって、地域の方々の合意形成を図る取組を最優先るべきです。



公立保育園の存続に全力

市では、民営化・民間化計画を一方的に進め、かつて10園あった公立保育園が現在4園となっています。

私は、閉園した市立しんかわ保育園にかつて子どもを預けていた保護者としても、市民と一緒に公立保育園の存続に力を尽くします。



民営化が狙われる市立しゅうおう保育園前で市議団と
=10月9日、中央町1丁目



一緒に頑張ります！

日本共産党 東京都議会議員 原のり子

教員退職後、津波という災害体験を、地域の人々がどう語り継いでいるのか、現地で聞き取り、論文にまとめている北村さん。歴史や文化、人々の思いを大事にする研究に感銘を受けました。こういう方こそ、市政に求められています。私も力をあわせてとりくみます。

中学教師40年 子育て・くらしの声を市政に

日本共産党東久留米くらしと教育相談室長

北村のり子

今すぐ
チェック
最新情報
はX(エックス)で
発信中



ごあいさつ

東久留米で生まれ育ち、東久留米で子育てをしてきました。

1月に急逝した市議の北村りゅうたの母親です。志半ばで逝ってしまった息子の悔しさを思うと、わずかであっても継ぎたいと思いました。

あらゆる行政の先には人がいて、暮らしがあります。子どもは未来を照らす希望です。副教材費の補助など保護者への負担軽減、公立保育園の存続、中学校での温かい全員給食の実現。これからできることはたくさんあるはずです。

市民の声が通る市政、市民の願いを実現する東久留米を一緒につくっていきましょう。

プロフィール

1959年1月東久留米生まれ。東久留米市立六小、東中卒業。都立国分寺高校、明治大学文学部卒業。

1982年4月～2022年3月 中学校国語教諭として勤務（狭山市、所沢市）、國學院大學大学院文学研究科で修士号取得。退職後博士課程後期在学中。論文テーマは「津波の語り」。

2021年度埼玉県所沢市教職員組合委員長、1995年度しんかわ保育園父母会会長、1998年度東久留米市立第六小学校PTA会長、日本民話の会会員として『怪談 オウマガドキ学園』（童心社）『都市伝説探偵セツナ』（ポプラ社）の執筆に携わる。

日本共産党東久留米市委員会は、北村のり子氏の政策と活動について発表しました。

東久留米民報 2025年11月号外 発行／東久留米市浅間町2-27-7 皆川久

教師40年の経験を活かし、子ども・暮らし・環境を守る市政へ

▶ 東久留米で生まれ育つ

子どものころ、教室の窓から見る雑木林の風景が好きでした。雑木林から黒目川沿いへの散歩道。緑陰、風、カワセミ……。この風景を守りたいです。

▶ 退職するまで中学校の担任を



中学校の国語の先生で、退職するまで担任を持たせてもらいました。体育祭、合唱祭と、行事を通して生徒の伸びてい

く姿を見ていると、担任って幸せだな、と感じることが多々ありました。

行き渋りや不登校などの教育相談も担いました。肢体不自由な生徒も担当し、話し合いながら工夫をして、修学旅行にも参加することができました。

▶ 民俗学を学び、各地で民話を聞き取る

高校で進路を考えるころ、机の上で学ぶ勉強ではなくて、生身の人間の声が聞こえるような学問をしたいと考えました。それが民話でした。40年

北村 のり子

間の教員生活退職後は大学院で民俗学を学び、三陸地方や石垣島、宮古島に足を運び、津波の話を聞き取っています。

▶ らしの土台は平和

父は戦争中、少年飛行兵の学校に入学し、その後通信兵として勤務しました。目が悪くて飛行兵になれず、泣いたと聞きました。

ついこの間、家に少年飛行兵の名簿があることに気が付きました。そして、多くの少年が鹿児島の知覧から沖縄へ特攻として飛び立ち、亡くなっていることがわかりました。

飛行兵になった仲間が特攻で死に、飛行兵になり損ねた自分が生きている。その思いが憲法九条を守る日本共産党への親近感となっていたのでしょうか。その思いは私に、そして、亡くなった息子にも受け継がれています。平和な社会は何よりも優先すべきです。

北村りゅうたの志を継いで

教育の無償化、都市計画道路の建設問題、生活保護や高齢者の熱中症対策…。1月に他界した息子の北村りゅうたが取り組んでいた課題です。道半ばで倒れた本人が一番悔しい思いをしているはずです。

私は北村りゅうたの思いを受け継いで、一つ一つの課題の解決のために全力で取り組みます。



学校教育の環境改善を進めます。

- 保護者負担の軽減に取り組みます。
- 小学校と同じ全員制の中学校給食を実現します。
- 空調のない小学校の給食調理室の労働環境を改善します。

物価は高くなるのに賃金は上がらない。消費税、国保税が重くのしかかる。そんな中、入学すると、思いがけない出費に驚かされます。その1つが副教材費です。各教科で配られる資料集、ワーク、

裁縫セット、鍵盤ハーモニカ、体育着。さらに移動教室、卒業アルバム代等。子どもが大きくなるまで、ちゃんと支えられるのだろうかと不安になることすらあります。

公教育の無償、教育の機会均等を謳うならば、市は副教材や移動教室など、教育にかかる費用に対して保護者の負担軽減を行うべきです。どの子ども社会に愛されていると感じられるような、そんな市政を求めます。

北村のり子さんに期待します

元保護者・城下のり子さん（埼玉県議会議員）



北村のり子先生との出会いは娘が中学1年生の担任となった時でした。

初めての中学校生活に親子で不安を抱き、悩みながらでしたが、いつも親身に寄り添ってくれた北村のり子先生。

あの時の支えがあったからこそ、娘は自分の目指す人生を着実に歩む事ができました。困った方にとことん寄り添う北村のり子さん、今度は市民を支えてくれると確信しています。

元同僚・山崎豊さん

市政への挑戦？ それは適任だ！ とすぐ納得しました。「これだめじゃない？」という正義感、「じゃあ私やります！」という行動力、「まあ何とかなるわよ」という楽天性、そして「北村先生なら大丈夫だよ」という信頼感、子ども達に寄り添う教育を実践した北村さんが今度は市民に寄り添う政治を目指す、頼もしい！ の一言です。